

選考委員特別賞

社内有志のボランティアサークル

「車イスドクターズ」の車いす修理活動

豊田合成

豊田合成は、社内有志のボランティアサークル「車イスドクターズ」による車いす修理活動を1996年から継続して実施している。近隣の老人ホームや地域の社会福祉協議会など年間12カ所を訪問し、500台以上を修理する。2015年からは高校生に車いす修理の指導を実施し、各地で修理ボランティアを広げる活動にもつなげている。

老人ホームでは車いすの利用者が多いものの、ホーム内で修理ができる職員がいないため、不自由な状態で利用しているという話を、近隣の社会福祉協議会から聞いたのがきっかけ。社内には、自転車や車いす修理スキルを持つ従業員がいたこと、従

業員の車いすを利用している家族が周囲に助けられた経験から貢献できることはないかと会社と相談があったことから、社内有志で活動を開始することになった。

当初は、車いす修理が可能な従業員数が少なかったため、近隣の自転車店から修理方法を学び、手探り状態でボランティア活動を開始した。モノづくり企業として26年間、活動を継続してきたことで、近隣の福祉施設からの信頼は厚い。コロナ禍によって介護施設などに入館できなくなったことに対応し、修理する車いすを社内に持ち帰り、

作業後に返却するという形に変えて継続している。

さらに、自社の活動にとどめず、青少年の教育にも役立て、



活動を広げている。14年からは、青少年の更生カリキュラムの一環として参加させてほしいという稲沢警察署から依頼さ



れ、活動を続けている。

また、15年からは、東日本大震災の復興支援活動として、岩手県立宮古商工高等学校で生徒へ車いすの修理指導を実施している。震災後、直接のボランティア活動を申し出たものの、大半が遠慮して実現しなかったという経緯がある。同じ岩手県民の手で修理ができるよう、修理方法を指導する形で支援を継続している。

【選考委員コメント】

利用している車いすの修理に困っているという福祉施設は多い。高齢化の進展に伴って、車いす修理の必要性は高まるとみられる。車いす修理を支援している活動は他にも存在するが、長期にわたり地道な活動を継続してきた結果、青少年教育への活用協力が要請されているなど、活動が認知されている。加えて、高校生への技術指導を通じて若年層へも活動の輪を広げており、さらなる広がりが期待される。

26年にわたり近隣施設訪問 年500台以上修理